

# チーム えがお



発行者:校長 岡田 達也

《学校教育目標》『自ら学び 心優しく たくましく生きる児童の育成』  
 ☆「かしく」自ら学ぶ子 ☆「やさしく」心豊かな子 ☆「たくましく」やりぬく子  
 ~ 図が お かが やき 図んばる 学校 困う えんだん 「チーム北川」 ~

## 「言葉」は 心を育て 人をつくります・・・



今週は、多くの方が来校されました。来校者の方を教室等に案内しているとき、多くの子もたちに廊下ですれ違います。明らかにお客さんと分かって、「こんにちは。」というあいさつが聞こえません。こちらから「あいさつをしよう。」と促すと、やっと近くにいる数人からあいさつが返ってくるだけでした。最近、登校してからのあいさつも、教職員から促して少し返ってくるという現状です。

通学途上の地域のみなさんへのあいさつ（おはようございます・こんにちは・さようなら・帰りました）は、きちんとできているのでしょうか。今月の生活目標「ふるさと愛」の基本は、地域のみなさんへのあいさつだと思えます。あいさつをしたのに相手から返ってこなかったら、寂しい気持ちや不快な気持ちになってしまいます。「挨拶」の語源は、仏教語の「一挨拶」（いちあい いちさつ、いちあい いっさつ）であると言われています。「挨拶」は、「互いに心を開いて相手に近づく」という意味があります。特に学校は、人と人が関わり合いながら集団生活する場です。その学校生活は登校した際の「おはようございます。」から始まり、下校の際の「さようなら。」のあいさつで終わります。つまり、あいさつは人が日常生活を営む上で最低限の生活規範であり、最も簡単でしかも大切なコミュニケーションと言えます。

こうした子どもたちの現状を全教職員で話し合い、「あいさつがもっとできるようにしよう！」ということで、①声を出すことに慣れさせる（朝の会等で練習する）、②場に応じた声量や工夫を意識づける、ことに全校あげて取り組むことにしました。

「おはようございます。」「行ってきます。」「こんにちは。」「さようなら。」「帰りました。」などのあいさつはもちろんのこと、「言葉」はとても大事な意味をもっています。その意味を理解し、正しく使うことを通して、使う人の心も育っていきます。著名な教育者の言葉にも、「言葉を育てることは心を育てること、人を育てること。教育そのものである。」とあります。学校においても、まずはあいさつから改めて指導をして参ります。保護者のみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

## 「わかる」「できる」授業に向けて!

10月25日(火)の5・6校時、放課後に、岡山県教育委員会と笠岡市教育委員会の指導主事の先生方をお招きして、魅力ある授業づくり徹底事業にかかわる校内研修会を開催しました。3年生と5年生の算数科の授業を全員で参観し、放課後は「わかる」「できる」授業に向けて研修しました。

講師の先生方から、子どもたちの学習ルールが身につけているとのありがたい感想をいただき、「落ちついて学習に取り組む、自分の考えを確かにする」ための大切な視点についても指導・助言をいただきました。今後も全校あげて日常授業の改善、「わかる」「できる」授業の実現に向けて努力して参ります。



~ まだ間に合います! 「緊急配信メール」の登録をお待ちしています! ~